

平成 18 年度
事業 報 告 書



平成 19 年 7 月

鹿児島県水産技術開発センター

指宿市岩本字高田上160-10

は し が き

本県の水産業を取り巻く環境は、資源状態の悪化や輸入水産物の増加、魚価の低迷、漁業就業者の減少・高齢化に加え、近年の燃油価格の高騰など、依然として厳しい状況にあります。

県においては、このような情勢や国の方針等を踏まえながら諸施策を実施し、力みなぎる水産業づくりを推進しています。

当センターにおきましても、「水産技術の開発と普及」を図るため、漁海況情報の迅速な提供、カンパチ等有用魚介類の種苗生産技術開発、資源管理や藻場造成の技術開発など、多様化する研究ニーズに対応した研究を進めているところです。

平成18年度は、センターに再編・統合してから3年目にあたり、カンパチ、サバヒ一等の種苗生産技術の向上や、漁業情報の迅速な提供など、新しい施設機能を生かした成果がみられてきました。

ここに、水産技術開発センターが平成18年度に実施した試験研究等の結果を「事業報告書」として取りまとめましたので、参考にさせていただければ幸いです。

今後とも、多様化・高度化するニーズに的確に対応しながら、計画的で効果的な試験研究に取り組むこととしておりますので、皆様の御理解と御協力をお願いします。

平成19年7月

鹿児島県水産技術開発センター
所長 松元利夫

目 次

【 庶 務 一 般 】

事務機構及び職種別人員	1
職員の職・氏名	2
平成18年度事業一覧	4

【 企 画 研 修 部 】

試験研究の企画調整	5
漁業情報提供事業	6
漁業研修推進事業	7

【 資 源 管 理 部 】

漁海況情報収集事業・漁海況情報提供事業	8
200カイリ水域内漁業資源総合調査(資源評価調査委託事業)	9
ピンナガ魚群調査	10
奄美水産資源有効活用推進事業(クロマグロ幼魚資源調査)	11
ヨコワ来遊予報調査	12
日本周辺クロマグロ調査委託事業	13
熱帯性まぐろ資源対策調査委託事業	14
浮魚資源調査(モジャコ調査)	15
奄美水産資源有効活用推進事業(底魚資源開発調査)	16
豊かな海づくり広域連携調査 - (マダイ)	17
豊かな海づくり広域連携調査 - (ヒラメ)	18
資源管理型漁業定着化事業(資源管理調査事業; マダコ)	19
漁場環境調査	20

【 漁 場 環 境 部 】

有害・有毒プランクトンモニタリング調査事業	21
赤潮発生ネットワーク強化支援事業	22
漁場環境監視指導事業	23
有害赤潮発生に関する生態学的研究	24
鹿児島海藻パーク造成事業	26
アマモ類分布実態・多様性解析調査	28
奄美水産資源有効活用推進事業(南方系ガラモ場造成試験)	29
漁場環境保全対策研究	31
川内原子力発電所温排水影響調査	32
漁場保全対策推進事業	33
内水面有用種増殖生態調査	34
シラヒゲウニ放流技術開発調査	36
奄美水産資源有効活用推進事業(ヤコウガイ放流技術開発)	37

【安全食品部】

水産加工技術開発支援事業	38
加工残滓天然調味料実用化試験	40
環境汚染低減化飼料開発試験（水産庁委託事業）	42
安心・安全な養殖魚生産技術開発事業	43
魚病総合対策事業 - （養殖衛生管理体制整備事業）	44
魚病総合対策事業 - （新型疾病対策事業；ノカルジア症対策）	45
魚病総合対策事業 - （養殖衛生管理技術開発研究；新型レンサ球菌症）	46
内水面魚病総合対策事業	47

【種苗開発部】

カンパチ種苗量産化技術開発試験	48
種苗量産化技術高度化事業（カサゴ）	49
内水面種苗生産技術開発研究 - （フナ）	50
内水面種苗生産技術開発研究 - （モクズガニ）	51
内水面種苗生産技術開発研究 - （サバヒー）	52
奄美水産資源有効活用推進事業（スジアラ種苗生産）	53
奄美水産資源有効活用推進事業（ヤコウガイ種苗生産）	55
シラヒゲウニ放流技術開発調査（種苗生産・供給）	57

庶務一般

事務機構及び職種別人員（平成18年度）

（平成18年4月1日現在）

機 構	職 種													合 計	
	行 政 職						技 術 職						非 常 勤 職 員		
	部 長	主任専門技術員	専門技術員	主幹兼係長	主 査	主 事	研 究 職					海 事 職			現業職
							所 長	副 所 長	部 長	主任研究員	研 究 員				
所 長						1									1
副 所 長							1								1
庶 務 部	1			1	2	1									5
企画研修部		1	1						(1)	1				1	4
資源管理部									1	4	2	2 6			3 3
漁場環境部									1	3	2				6
安全食品部									1	3	1			1	6
種苗開発部									1	3	1		4		9
合 計	1	1	1	1	2	1	1	1	4	1 4	6	2 6	4	2	6 5
対前年増減					+ 1										+ 1

注) 表中の()内は兼務職。

職 員 の 職 ・ 氏 名 (平成18年度)

平成18年 4月 1日現在

部 名	職 名	氏 名
	場 長 副 場 長	古賀 吾一 福留己樹夫 (企画研修部長兼務)
庶 務 部	部 長 主幹兼総務係長 主 査 主 事	安永 正憲 富永 吉昭 森 親幸 岡村 美幸 福永 博行
企 画 研 修 部	部 長 主任専門技術員 専 門 技 術 員 主 任 研 究 員 企画研修指導員	福留己樹夫 万田 芳太郎 西野 博 江夏 竜郎 永里 敏久
資 源 管 理 部	部 長 主 任 研 究 員 研 究 員	井上 慶幸 田中 耕治 石田 博文 森永 法政 久保 満 榊 純一郎 槐島 光次郎
調査船おおすみ	船 長 漁 労 長 機 関 長 一 等 機 関 士 技 術 主 査 航 海 士 通 信 士 船 舶 士	今給黎 誠 中村 一男 前畑 和人 松元 寿生 宿里 幸郎 岩元 文敏 北山 大吾 玉寄 将 長井 智之

部 名		職 名	氏 名
資 源 管 理 部	調査船くろしお	船 長	丸 儀 敏 之
		漁 労 長	杜 山 昇
		機 関 長	古 木 秀 治
		航 海 長	茶 屋 雅 彦
		一 等 機 関 士	小 出 水 秋 洋
		技 術 主 査	是 枝 次 男 富 永 満 洋 若 松 勝 久
			加 美 光 浩 守 山 恵 一
			海 陸 和 人 中 村 眞 也
		航 海 士	川 崎 太 山 賀 一 成 伊 藤 恒 平
		通 信 士	松 野 下 俊 作
		臨 時 的 任 用	高 田 政 美
漁 場 環 境 部		部 長	今 村 昭 則
		主 任 研 究 員	猪 狩 忠 光 吉 満 敏 田 中 敏 博
		研 究 員	今 吉 雄 二 村 田 圭 助
安 全 食 品 部		部 長	折 田 和 三
		主 任 研 究 員	森 島 義 明 保 聖 子 平 江 多 績
		研 究 員	村 瀬 拓 也
		研 究 業 務 補 助 員	新 町 静 夫
種 苗 開 発 部		部 長	中 村 章 彦
		主 任 研 究 員	外 菌 博 人 中 野 正 明 川 口 吉 徳
		研 究 員	野 元 聡
		技 術 補 佐 員	松 原 中 神 野 芳 久 松 元 則 男
			池 田 祐 介

平成 18 年度 事業 一 覧

(決算額)

担当部名	事業名 / 事項名	事業費(円)	摘 要
庶務部	水産技術開発センター運営費	119,408,933	H16～, 県単
	水産技術開発センター維持補修費	1,096,000	H16～, 県単
企画研修部	漁業情報提供事業	10,638,000	H16～, 県単
資源管理部	船舶運営費	44,632,441	県単
	漁海況予報事業	1,326,000	H9～, 国補・県単
	200カイリ水域内漁業資源総合調査	28,059,000	S52～, 特定
	マグロ漁場調査	9,845,000	S44～, 県単・特定
	沿岸・近海漁業資源調査	4,197,400	S62～, 県単
漁場環境部	赤潮総合対策調査事業	5,200,000	S52～, 国補・県単・国委
	鹿児島海藻パーク造成事業	4,328,000	H16～, 国補・特定
	漁場環境保全対策研究	250,000	S57～, 県単
	温排水影響調査事業	5,282,921	S56～, 県単
	内水面有用種増殖生態調査研究	324,000	H16～, 県単
	シラヒゲウニ放流技術開発調査	2,358,000	H17～, 一部国庫
安全食品部	水産加工技術開発支援事業	1,339,300	H16～, 県単
	加工残滓天然調味料実用化試験	523,000	H14～, 県単
	環境汚染低減化飼料開発試験	1,725,000	H14～, 国委
	安心・安全な養殖魚生産技術開発事業	701,000	H16～, 県単
	魚病総合対策事業	2,329,000	S59～, 国補・県単・特定
	内水面魚病総合対策事業	510,000	S61～, 国補
種苗開発部	カンパチ種苗量産化技術開発試験	25,841,000	H16～, 県単・特定
	種苗量産技術高度化事業	551,000	H16～, 県単
	内水面種苗生産技術開発研究	477,000	H16～, 県単
合 計		270,941,995	

企画 研修 部

試験研究の企画調整

江夏ほか企画研修部全員

目的

本県水産業の計画的・効果的な試験研究を推進するため、課題設定、進行管理、成果の普及など、総合的な企画調整を行う。

開催地：水産技術開発センター

構成：鹿大水産学部，水技センター
共同連携研究

5大学，16課題

事業内容

- 1 試験研究ニーズ等の把握
- 2 試験研究の総合的な企画調整
- 3 試験研究の進行管理
- 4 研究成果の広報・普及
- 5 国内外の技術交流・研修の調整

- (4) 関係部局の連携等
県科学技術振興推進会議(H18実績なし)
水技 焼酎粕有効利用(トコブシ飼料)
- (5) 水族館との連携
交流会の開催(H18実績なし)
カサゴの水族館展示

平成18年度実績

1 試験研究ニーズ等の把握

- (1) 図書文献の収集整理(新着情報週1回)
- (2) ネット情報の収集整理(随時)
- (3) 現地応用講座によるニーズ把握(3回)
- (4) 視察研修受入によるニーズ把握(随時)

2 試験研究の総合的な企画調整

- (1) 水産総合研究センターとの連携等
ブロック別水産業試験研究推進会議
西海区ブロック(西海区水研主催)
中央ブロック(中央水研主催)
専門分野別水産業試験研究推進会議
水産利用加工(中央水研主催)
内水面(中央水研主催)
共同連携研究 13課題
- (2) 他県との連携等
全国水産試験場長会
・H18～19(暦年)理事 役員会へ(所長)
・地域試験研究振興協議会 委員(所長)
・同上モニタリング作業部会(資源部長)
九州・山口水産試験場長会(年2回)
・副会長
・企画分科会，藻場分科会の新設
南西諸島栽培漁業技術連絡協議会
開催地：沖縄県
構成：沖縄県，鹿児島県，水研センター
共同連携研究 10課題
- (3) 大学等との連携
水産研究交流セミナー(H13～)

3 試験研究の進行管理

- (1) 課題進行管理(4月)
- (2) 業務検討会(各部，4～5月)
- (3) 中間進行管理(10月)

4 研究成果の広報・普及

- (1) 漁業情報システムの運用(別掲)
- (2) 漁業研修の推進(別掲)
- (3) 機関誌「うしお」の発行(年4回,250部)
- (4) 事業報告書の発行(400部)
- (5) 研究報告会(2月，於；水技センター)
- (6) 研修視察等の受入(次項に記載)
- (7) 広報誌等への寄稿(0件)
- (8) その他(記録しておくべき事項)
特許等(1件)
特許出願1件
授賞等(0件)
学位取得(0件)

5 国内外の技術交流・研修の調整等

区分	団体数	人数
研修視察受入	57	1,126
海外研修生	6	104
インターンシップ	2	8
一般見学受入	98	1,812
合計	155	2,938

年度別実績(来館者)

H16	H17	H18
4,648	2,880	2,938

漁業情報提供事業

江夏，田中，森永，平江，村田

目的

水産技術開発センターの試験研究の成果等を迅速に広報・普及するため，開発した漁業情報システムの円滑な運用を図る。

事業内容

- 1 漁業情報の迅速な提供
- 2 漁業情報システムの円滑な運用

平成18年度実績

事業の実績及び計画

1 漁業情報システムの円滑な運用

漁業情報システムの保守業務については，民間の専門業者に委託して実施した。

2 漁業情報の迅速な提供

(単位：件)

媒体	H16	H17	H18
Webサイト訪問数	79,341	129,656	232,315
人気サイト 人工衛星	95,218	154,948	206,420
赤 潮	77,960	114,849	107,056
フェリー	33,646	54,100	94,601
音声情報(浮魚礁)	4,933	6,325	3,844
F A X 情報(衛星等)	203	393	443
システム利用合計	84,477	136,374	236,602

漁業情報システムの概要

システム名	内 容	ネット	電話	F A X	携帯
人工衛星	水温分布(画像)				
	水温分布(白黒)				
	クロフィル(画像)				
フェリー <small>なみのうえ クイコ-ラル8 ニューこしき</small>	水温・流向図				
	定点別水温				
	黒潮北縁域				
	海況速報図				
浮魚礁 (下甌沖)	水温				
	風向・風速				
漁海況	週報				
	長期予報				
	モジャコ情報				
	卵稚仔調査結果				
地理情報	海底地形図ほか				
漁船通信	漁場探索支援システム				
水揚・市況	水揚情報等				
赤 潮	地図でみる赤潮情報				
	赤潮調査結果				
	注意報・警報ほか				
魚 病	ワクチン申請				
	魚病診断				
	魚病情報				

漁業研修推進事業

万田ほか企画研修部全員

目的

漁業生産の担い手の確保・育成を図るため、新規着業者や中核的漁業者等の漁業研修を推進する。

研修体系

就業前の小中高生，新規就業者，中堅漁業者等を対象に研修会を実施した。

さらに，各地での現地応用講座等も実施した。

平成18年度実績

1 小中学生研修

区分	対象等	人数	日数
うみべの教室	今和泉小5年生 年間をとおして ワカメに関する体験学習	17	4

2 高校生研修

区分	対象等	人数	日数
水産高校 (栽培工学コース)	水技センターほか 栽培漁業等	14	3
水産高校 (海洋技術コース)	水技センターほか 乗船体験等	14	3

3 漁業就業者研修

区分	対象等	人数	日数
漁船漁業コース	新規就業者	8	4
養殖漁業コース	新規就業者	12	2
潜水土講習	漁業者	22	2
漁業経営コース	各種研修で実施	-	-
情報システムコース	各種研修で実施	-	-

4 現地応用講座

区分	対象等	人数	日数
調査研究報告等	北薩地区	34	1
"	三島村地区	40	1
"	熊毛地区	30	1
"	鹿屋地区	19	1

5 コンサルタント派遣事業

研修内容	実施場所	人数	日数
各地域における関係課題	指宿地区	28	1
	西薩地区	80	1

6 市町村水産担当職員研修

研修内容	実施場所	人数	日数
水産技術開発センタ-の研究状況	いちき串木野市	34	1

7 ザ・漁師塾（入門研修）

区分	実施場所	人数	日数
入門研修	鹿児島，笠沙	23	2